

学校だより

伊豆市立熊坂小学校

10月号

令和2年度 学校教育目標『気づき 考え やりぬく子』

重点目標「すすんでやります 心をこめて」

合い言葉「明るいあいさつ きれいな学校」

学校経営目標「楽しい学校づくり～子どもが主役の学校～」

熊坂小学校長 松下 八十二

10月に入りましたが、まだまだ日中の日差しは強く暑さを感じます。しかし、先月末には富士山で初冠雪を観測したり、朝晩は涼しいを通り越し肌寒さを感じたり、赤とんぼが飛んでいたりと、身近に秋は確実にやってきています。秋は夏の暑さから開放され、過ごしやすい気候になることから集中力が高まり「学習の秋」「運動の秋」とも言われます。学習や運動に最適なこの季節、コロナウイルスにより多くの活動が制約されていますが、今という時を大切に、子どもたちと共に精一杯頑張っていきたいと思います。



さて今年度も熊坂小学校では、「楽しい学校」を目標に全職員で取り組んでいます。実現するために掲げた4つの柱のうちの1つが「地域連携」(他の3つは「子どもにとって分かる・楽しい授業」「仲間づくり」「教職員の連携」)です。地域づくり協議会の梅原会長が、「子どもは地域の宝である」という考えから学校の教育活動に対し理解を示し、子どものためにと協力していただけることをきっかけに、「学校と地域」「子どもと地域」をつなぐため、コミュニティスクールを立ち上げました。コロナ禍の下、このタイミングで人を集めるのはという思いもありましたが、この機会を逃したら次いつできるか分からないということもあり、コロナウイルス感染対策には十分に配慮しつつ思い切ってコミュニティスクールを始動させてもらいました。今、取組に賛同していただき、中心となって活動を始めてくださっている方々がコミュニティスクールの委員さんです。保護者の皆様だけでなく地域の方の中からも、子どもたちのために学校の教育活動に理解を示し、共に活動していただける方を一人でも多く増やせるようにしていきたいと思っています。先月行った狩野川台風に学ぶ会や親子ふれあい体験教室にも、講座の講師探しと準備にコミュニティスクールの方々に関わっていただきました。親子ふれあい体験教室のアンケートに、「地域の方が頑張ってくれているので、できることはお手伝いしたい。」と書いてくれた保護者の方もいました。子どもたちのために何かしてあげたいと思う方、これからの活動に積極的な参加・協力を楽しみにしています。

狩野川台風に学ぶ会

62年前の9月26日に発生した狩野川台風は、甚大な被害を受けた熊坂地区や熊坂小学校にとって忘れることができない、忘れてはいけない出来事です。熊坂小学校でも78名の児童と2名の教員の尊い命が奪われてしまいました。毎年、熊坂小学校では、狩野川台風の事を忘れない、後世に伝えていくために、狩野川台風を経験された方を招き9月26日に狩野川台風に学ぶ会を行っています。



【講師の三島さん】

今年は、狩野川台風から62年が過ぎています、記憶を風化させず、より自分事として話を聞けるように、4人の講師をお招きし各教室で話を聞きました。また、親子で防災について話し合う機会とするために、保護者の方にも参加を呼びかけ参加してもらいました。講和後の子どもたちからは、「自分の命は自分で守る」「素早く避難をする」「防災を考える機会となった」という意見を聞くことができました。

【献花を行う6年生】

昨年の台風19号では、体育館下の駐車場の冠水を始めとし田方に大きな被害をもたらしました。台風19号は規模や進路が狩野川台風に似ていると、ニュースでも取り上げられました。今後もこの規模の台風が発生する可能性は高にあります。ぜひ、この機会に防災について家族で話し合ってみてください。

地域とともにある学校～コミュニティスクールの取組み～

<土曜学校公開・親子ふれあい体験教室 9月26日>

9月26日には親子ふれあい体験教室を行いました。コミュニティスクール推進委員の方に講座の講師をご紹介いただき、父母と先生の会運営委員の皆さんに各講座の担当として、教員とともに運営をしました。

当日は天候が安定せず、川遊びの実施については開始直前の決定となってしまったことで、講師の方にもご迷惑をおかけしました。しかし、川遊びはもちろん、開講した全ての講座で子どもたちだけでなく、ご参加いただいた保護者、地域の皆さんが笑顔で活動する姿が随所で見られ、とても嬉しく思いました。コロナ禍において、子どもも大人も思いきり楽しめない現



<川遊び（山田川）>



<昔遊び（竹とんぼ・水鉄砲）>

状の中でも、地域の方と共に学校づくりを進めることで、こんなにもあたたかい、楽しい時間をつくり出すことができるのだと、改めて感じることもできました。また、当日、視察に来ていた方からも「保護者と地域がともに子どもとつながる、理想的な学校ですね」とお言葉をいただきました。

今後も、子どもたちが「じっくり考える」「体験から学ぶ」「笑顔で楽しむ」活動を地域や保護者の皆さんのご協力のもとで行っていきたくと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

<狩野川台風に学ぶ会・親子ふれあい体験教室の参加者の感想>

（子どもたち）

- 家族ってすごく大事なんだなってすごく思いました。台風が来たときも家族みんなで助け合いたいです。
- 改めて狩野川台風はすごいと思った。何人も亡くなって怖くなった。三島さんは流されなくてよかったと言っていた。話を聞いて、台風の恐怖が伝わりました。
- 狩野川台風はとても怖いものだと知っていたけど、話を聞いて、怖さがもっと分かりました。とても大変な台風でたくさんの犠牲者が出たので、62年前のことだけど、絶対に忘れちゃいけないなと感じました。わたしたちが聞いているだけで、辛い話だから経験した西島さんは思い出ただけでも辛いだろうに、わたしたちが学ぶ為に話をしてくれたので、感謝したいと思います。
- 魚をつったり、取ったりするのは大変だと分かりました。水が冷たくて驚きました。この活動で親との関わりも築けたのではないかと思います。この活動で自然の楽しさも分かりました。
- たくさんの人と陶芸をやりました。地域の人や保護者とやりました。最初は分からなかったけど、地域の人々が教えてくれました。これからもたくさんの人とふれあいたいです。
- 水鉄砲を作るときにのこぎりを使って作業するのが難しかったです。竹とんぼは失敗してしまっただけで、いつもは買って遊ぶものを地域の人や保護者と協力して作ることができて嬉しかったです。また作って遊びたいです。



<陶芸>



<軽スポーツ>

（保護者）

- 狩野川公園の献花を初めて見に行きました。狩野川台風から62年経った今も地元の子供たちによって甚大な被害を受けた台風の記憶が引き継がれているのは、とても大切なことだと思います。
- まず悪天候に際し、しゃぎりと川遊びの両方の準備をしていただき、ありがとうございました。冷たい水や悪天候など関係なしに、元気にはしゃぐ子どもたちの元気な様子に、今年は特に嬉しく思いました。釣り竿もただけて嬉しかったです。狩野川台風に学ぶ会も去年に引き続き参加させていただきました。子どもたちだけでなく、大人にとってもとても貴重な機会だと思っています。
- 親子だけでなく、地域の人たちや学校の先生方との交流の場となり、よかったと思います。
- 普段見ることのない子どもの真剣な瞳、釘、木、金づち、近くにある物でこんなに夢中になるとは。写真立てがうまいくさず悪戦苦闘している姿は、親子にとってよい思い出になるとと思っています。



<木工（写真立て）>